

お茶の会、新米実行委員の事件簿 佐々木ナオミ

●3月16日 備品整備&懇親会

参加者のみなさんと初の顔合わせ！コンテナを清掃、機械の整備。ただぼんやりと参加しましたが、コンテナ清掃には洗車用の硬めのブラシとかあったら便利だったねえ。ということで、家が近い石井さんに取りに行ってもらおう。来年の持ち物はブラシだね！昨年のお茶をみんなで飲みましたが、わたしがポットに直接茶葉を入れたためにお茶が出なくなりました。ポットに茶葉を直接いれてはいけません。これも教訓です。

●お茶摘みに向けて準備

お茶をどのくらい摘むか、何人で摘むかが、お茶摘みの成功のカギを握っている。製茶を頼む田中さんの工場では、60キロの単位で持ってこないと、他のお茶葉と混ぜての製茶となる。それはちと悲しい！60キロ以上摘むとしたら、120キロまで摘まないとならない。参加者は1口6キロだから、ちょうど10口の申し込みならいいけれど、11口の申し込みがあったら、20口までの残り9口分をどうやって摘もうか？ということになるので、(て、意味わかりますか?)なので、申し込み状況とにらめっこ。10口を超えた～！もっと人集めなくちゃ～！となるわけです。参加者募集にそんな微妙な内情があったとは！これも発見です。

●お茶摘み実施

お茶摘み2日目の5月1日は曇りだったので決行しましたが、結局午後からかなり降ってきてしまった！その時点で茶葉は60キロに満たない状態でしたが、なんとか製茶してもらえ(田中さん感謝!)摘み残したお茶は次の日に順延。

次の日は少人数でしたので、とにかく、頑張っって30キロ摘んで、30キロで製茶してくれる別の工場へ持って行くことに。お昼までで摘み終えて、さてお弁当でものんびり食べて解散かなあ。なんて思っていたところに携帯電話が鳴り響き、山下さんの悲痛の叫び「工場休み！帰らないで～!!」ということで、帰ってしまった人を泣き落としとして戻ってきてもらい、さらに量を摘んで、やっぱり田中さんに製茶してもらおうことに。(再度感謝!)

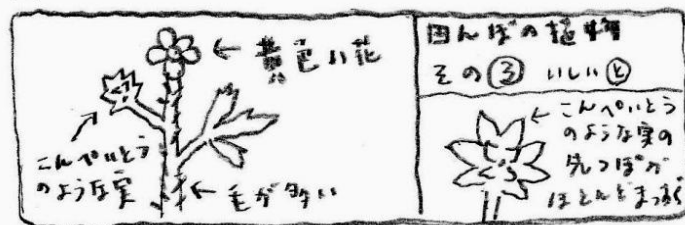
茶葉はほぼ摘み尽くして小さいのしかないし、その上、またまた雨が降り出してきて、大変な苦行に。終わった時にはヘトヘトだったけれど、なんだか妙な連帯感。中学時代の部活のアレみたいな…。(編注:今年は遅霜の影響で全体の3分の1以上の新芽が焼けてしまい、摘める葉がいつもよりかなり少なかったというのも大きかった。もっと葉っぱがあれば……)

●5月4日 分配の会(という名の合コンでもあった?)

お茶工場で製茶されたお茶をみんなで分け合う。今年は分配の会を尊徳記念館で開催！お茶を各自袋に詰め、真空パックをし、そのあとは持ち寄りお菓子で新茶をいただきながらのお茶会。話も弾んで楽しかった！そして、今年のお茶はすこぶる美味しかった！

残念ながら今回はカップル成立なし。というよりその方面は人材不足(笑)来年はぜひお茶摘みからカップル誕生を。

ドタバタとしながらも楽しいお茶畑。涙と汗と笑いと共に、まだまだお茶畑の作業は続きます♪



ケキツネノボタン

あまり草花にくわしくなくても黄色い花でコンペイトウのような実をつけるといえば“キツネノボタン”と名前がでてくる人も多いと思う。しかしながら船原田んぼで見かけるのは“ケキツネノボタン”と言ってキツネノボタンとは少し違う。

キツネノボタンの茎などにはほとんど毛がなく、コンペイトウのような実の先が曲がっているのに対して、ケキツネノボタンは毛が密生し、実の先がだたいまっすぐ、存在感もこっちの方がやや上かと。

丁度あぜの草刈、田んぼの荒おこしが始まる少し前がこのケキツネノボタンの実が熟すとき。硬くひとつのこんべいとうのようにまとまっていた青い実が、やや黄色みをおび始めたころさわると、手の中で砂糖菓子が溶けるかのように一瞬でばらばらになるのが楽しくてついついあそんでしまう。

植物がその分布を広げる方法に“種を風で飛ばす”種を動物の毛にくっつける”そして“人為的な分布”というのがある。私が無意識的にしてしまった種まき行為によって、来年の春の船原田んぼは、きっとケキツネノボタンだらけになっていることだろう。(石井俊哉)

今年の苗作り 【新永塚たんぼ】 大瀬隆義

昨年はキヌヒカリと餅米の合計で500kg弱と、新永塚で米作りを始めて、過去最低の収量となってしまいました。原因を考えると、穂が付きはじめた7月後半に、雀か害虫？により穂を吸われて白くなり、実が入らないものが多く発生してしまったことや、稗が大量発生して、分枯を妨げた事。また、苗が小さいものしかできず、成長に影響した等が挙げられます。何とかせにゃならん！と、稲刈りが終わってからは、稗の残った藁は焼き払い、冬に鶏糞撒きと粗起こしをやりました。ただ米作りは「苗七分作」と言われる様に大きくて丈夫な苗を作ることがもっとも、重要なことの様です。

今年の苗作りですが、久ノ上たんぼをお借りして、笹村さんに代かきや水の管理をして頂き週に1回、成長ぶりを、ドキドキしながら見に行ってます。種撒きの入れ物も①セルトレー②機械植用のトレー③発砲スチロールの箱④直撒きと4パターンに分けて植えてみました。保温は穴あきのビニールトンネルを使いました。

種撒きから43日経過しましたが、大きいものは43cmを超え、5.5葉に達し、小さいものでも20cmを超え昨年の最大品並になりました。代かきでトレーの密着性があり、ビニールトンネルで保温ができ、水も、一段上の田んぼで水温が上がったものを供給して頂いたことが良い苗作りとなりました。良い環境であれば植え方の差はあまり出ませんでした。今年も期待できそうです。(笹村さんに多謝!!)

大豆の会大豆のお豆腐・限定販売

6月14・15・16日

小田原まちなか市場でお世話になっている湯河原のこだわりのお豆腐屋「十二庵」さんにてあしがら農の会の大豆の会で多くの皆さんの愛情が込められた大豆を使って、これまた深く、柔らかい愛情をこめられたお豆腐が販売されます。めったにない機会です。皆さんどうぞ美味しいお豆腐を…(松本)

元々、都内でサラリーマンをしていましたが、地元に関わることを何かしたいと常々感じていました。そして、色々模索している中で豆腐というものに出会い、気がついたら湯河原で豆腐屋になっていました(苦笑)。あつという間の3年と8カ月でした。色々なお豆腐が溢れてしまっている世の中で、安心なものが作りたい。美味しい本当の豆腐を知ってもらいたいとの想いだけで、本当にあつという間に過ぎた時間でした。

お豆腐嫌いなお子さんでも食べられる大豆の甘さのしっかりしたお豆腐を作っています。そんな中で、去年、なんくる農園さんの小糸在来で何度かお豆腐を作る機会を頂きました。最初に絞らたての豆乳をなめた時の衝撃はいまだに忘れられません。すぐに従業員を呼んで、「これはスゴイ」と皆でわいわい騒ぎました。元々、なかなかお豆腐になることの無い在来種なども、手に入る限り色々試してきました。その中でもなんくる農園さんの小糸在来は飛び抜けた甘さで、改めて大豆のすごさを感じるものでした。そして今年、農の会の皆さんの大豆を分けてもらえることになった時は小躍りして喜びました(心の中で)。

是非、地元の人たちにこの大豆のすごさを伝えたいと思います。地元で作った大豆をお豆腐に出来る喜びを感じつつ、**6月14～16日の3日間だけ、お店で農の会の小糸在来を数量限定で販売します。**数量も少ないので、その3日間以外はいつ販売するかわかりません。是非お時間ある方は遊びに来てください。『湯河原 十二庵』 浅沼宇雄



湯河原 十二庵 (ゆがわらじゅうにあん)
〒259-0314 湯河原町宮上170-1
営業時間: 10:00~18:00 (水曜定休)
☎ 0465-43-7750

- 湯河原駅から奥湯河原方面へ、徒歩約25分。
- 湯河原駅発「奥湯河原」「不動滝」行きバス、「宮上会館」下車 徒歩1分

URL: <http://www.12an.jp>

第4回料理の会 マヨネーズ作りO。

5月26日、前回と同じくマヨネーズ作りの会となりました。以前と同じ料理法、材料で試作です。

出来上がったマヨネーズに、ホウレンソウ、セリ、セブンをそれぞれ加えて味見します。

- ・ホウレンソウは酸味がストレートに伝わります。
- ・セリは入れると、とくに高級レストランのドレッシングのような味になりました!!

しぼり汁や、たくあんをみじん切りにしたのを加えると、和風タルタルソースになりおいしいそうです。油の量も調節して、好みの固さにし、料理に合わせてアレンジしよう、との事でした。

今日、料理や道具に関して、質問が99、100個が何れも答えてくださる(本当に何でも返ります)あつという間、2時間が過ぎ、とても楽しく、勉強になる回でした。

黒澤育子

はじめての水当番

やまちゃん田んぼ

昨年から、開成町金井島にある田んぼを苗床として使わせてもらっている。町内に住む私は、団長やまちゃんのご指導の下、時々水当番をさせてもらった。

主な作業は水路のごみ取りと様子見で、特にイジることはないのだが、厳密には夜間に水を止めるなど、もっと手間がかかるようだ。日中の管理だけでも、天候によって浸み込み具合が違うし、水位が1cm変わると浸り方がすっかり変わってしまうらしい。昨年は種が流れ出した所もあったとか。別のグループの苗もあるので責任重大だ。

初心者の私は、まず田んぼ全体の凸凹と水の流をじっくり見ることから始めてみた。なるほど晴天時には朝夕で水量が変わり、所々淀みもできていた。水みちをじっくり追って、少しだけ土を削って水の流を作ってみたり、ほんのちよつとだけ水の量を増やしてみたり。それでうまく水が行き渡るようになってとても嬉しかった。芽が出て根が張ってくると一安心。あとは苗の成長を見守った。当番の最終日は雨模様。何だか卒業試験のようで、入口出口の開け具合を変えて水位を調整した。あれでうまくいったのかな…?

苗はすすく成長してくれたので、ドキドキしつつも楽しく水当番をやらせてもらった。苗への愛着も一段と増し、今年は「見て見て～この立派な苗！」という気分である。今から実りの秋が楽しみだ。

下山佳子